

デーリー東北
2019年(平成31年)1月22日(火曜日) (14)

技術者の心構え考える

八工大原子力対話会 学生ら議論

六ヶ所

八戸工業大は18日、六ヶ所村のスワニーで、日本原子力学会シニアネットワーク連絡会(SNW)の協力を得て、原子力対話会を開いた。学生が原子力関連企業で働く大学OBや専門家



原子力に関して意見を交わす学生ら

と、東京電力福島第1原発事故後の原子力を取り巻く現状、技術者としての心構えなどについて意見を交わした。同大は、原子力の基礎教育を進めている。対話会は人材育成の一環として、初めて核燃料サイクル施設が立地する六ヶ所で

開催。3、4年生、院生の18人やSNW会員、同大OBらが参加した。

SNW副会長の早瀬佑一さんが「原子力の仕事のこれまでと、これから」と題して講演。「完璧な電源はない」とし、エネルギーミックスのバランスがどう在るべきかについて議論する必要性を訴えた。

この後、出席者は4班に分かれて議論。各班代表の学生は「原子力に関して理解を得るには、伝える側が信頼される人になることが大切」「原子力の知識がある人は、知らない人に正しく伝える義務がある」などと発表した。

日本原燃への就職が内定している工学部電気電子工学科4年の細越悠樹さん(22)は「エネルギーミックスの在り方などを聞けて、ためになった。原子力の国民理解を得るためにも、働いたら技術を高めていきたい」と話していた。

(齋藤桂)